

平成26年度 自主防災組織活動マニュアル研修会

～地域に合った防災活動を考える～



テーマ3 『活動マニュアルの作成について』
茅ヶ崎市

はじめに

～自主防災組織活動マニュアルの必要性について～

東日本大震災以降、首都直下地震や南海トラフ地震、相模トラフ沿いでの地震等の大地震の発生が切迫性が取りざたされています。

地震の発生を防ぐことはできませんが、地震による被害は、自主防災組織の取り組みとしての平時からの地震への備えと地震発生後の適切な活動で大きく『減災』することができます。

被害を大きく減らすためには、地域の災害の特性を理解し、平時から災害リスクに備えるとともに、災害発生時に個々がバラバラに活動するのではなく、地域が組織的に役割分担して効率的・効果的に活動することが求められます。

地域が組織的に活動するためには、共通の目的意識をもとに協力できる事前の活動のルール（活動マニュアル）を作成し、地域全体が活動のあり方を理解する必要があります。

平成26年度は、このような「自主防災組織活動マニュアル」を各自主防災組織が作成し、震災時には地域が一丸となって協力し活動できるような体制を備えるための一助となるよう研修会を開催します。

茅ヶ崎市

《研修会スケジュール》

自主防災組織活動マニュアルの研修会は、3つのテーマに分けて開催します。

テーマ1（6月～8月）『地域の災害リスクを正しく理解する』

震災時の死の3大要素「家屋倒壊・家具の転倒」「津波」「火災」の実情と茅ヶ崎市で想定されている災害リスクに照らし合わせて、それぞれの地域ごとに何が一番命を奪うリスクなのかを正しく理解します。

テーマ2（10月～11月頃）『自主防災組織の活動の流れをイメージする』

地域の災害リスクに照らし合わせて、発災直後の応急活動から安全な場所へ避難するまでの活動の流れを図上検討します。あるべき活動の在り方を考え、現状での課題を把握することを目的とします。

テーマ3（12月～1月頃）『活動マニュアルの作成手順について』

テーマ2で検討した活動の流れを整理し、活動マニュアルの骨子案を作るとともに、地域の人が見て分かり易い活動マニュアルを作るための作成手順について学びます。

《目次》

はじめに

テーマ3『活動マニュアルの作成について』……………P3

・テーマ1～2のまとめ

整理①活動対象となる災害リスクと対処方法……………P4

整理②組織としての活動の在り方……………P6

・活動マニュアル作成作業

手順1 掲載項目を整理する……………P12

手順2 マニュアルの構成と目次を考える……………P13

手順3 ページのレイアウトを考える……………P16

手順4 分かりやすく見やすいマニュアルの工夫……………P18

・テクニック1 正確・簡潔で分かりやすい表題・項目名……………P19

・テクニック2 効果的なデザイン・レイアウト・カラー配色……………P20

・テクニック3 文章の図式化……………P21

・テクニック4 イメージは、言葉ではなく写真やイラストで……………P23

手順5 印刷・製本について……………P25

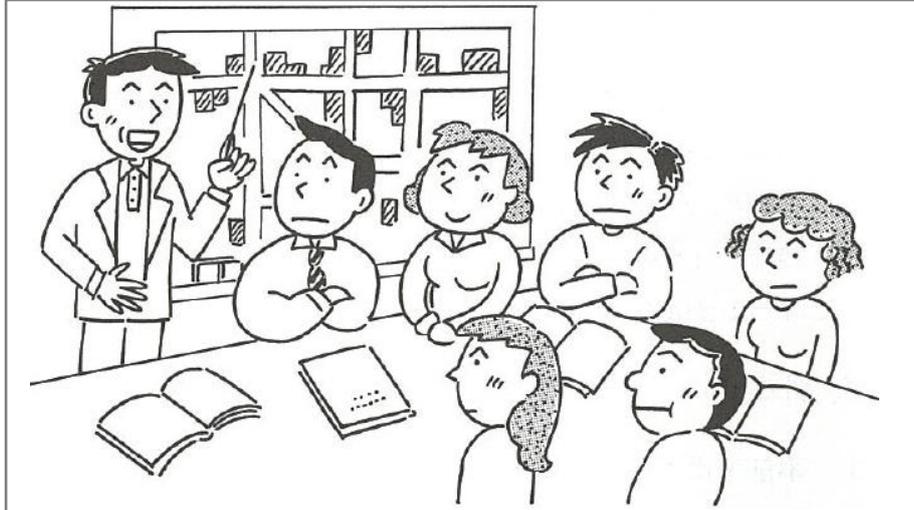
マニュアル作成後の活用方法

PDCA サイクル……………P26

マニュアルを活用した訓練……………P27

自主防災組織活動マニュアル提出のお願い……………P30

テーマ3 『活動マニュアルの作成について』



テーマ1の目的は、自分の地域に襲い掛かる本当のリスクを見定め、そのリスクをイメージした上で、テーマ2ではどのように対処すれば被害を最小限にすることができるか、地震発生後からの活動の在り方について検討していただきました。

テーマ3では、これまで検討してきた内容をいよいよマニュアルという形にまとめていきたいと思えます。

マニュアルを作成する目的は『災害時に組織的に活動するための事前のルール』を作成するためであり、そのルールを地域に浸透させ、いざという時に地域が一丸となって活動することです。

そのためには、活動の流れを時系列で整理して地域にイメージしやすい冊子として、一人でも多くの人に見やすく分かり易く活動の手順を示し、活動を浸透させる必要があります。

テーマ3の『活動マニュアルの作成について』では、検討してきた活動内容を整理し、見やすく分かり易い内容の冊子に仕上げるまでの手順について一緒に考えていこうと思います。

テーマ1～2のおさらい

整理①活動対象となる災害リスクと対処方法

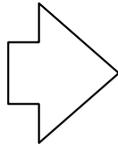
住んでいる地域で考えられる、対応する優先度の高い災害リスクと、その対処方法を書き込みましょう。

《対応する優先度の高い災害リスク》

《リスクに対する対処方法》

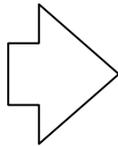
《優先度 No1》

《対処方法》



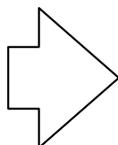
《優先度 No 2》

《対処方法》



《優先度 No 3》

《対処方法》



(参考例)

整理①活動対象となる災害リスクと対処方法

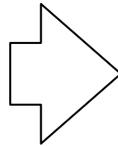
《対応する優先度の高い災害リスク》

《リスクに対する対処方法》

《優先度 No1》

火災

50%



《対処方法》

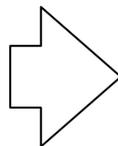
- ・初期消火能力向上（天井に火が届く2～5分以内）
→地域に消火器購入の働きかけ、あっせん
- ・延焼阻止（火元から隣家に火が移る前に阻止）
→移動式ホース格納箱の取扱訓練と設置場所の周知
- ・広域避難場所への避難（延焼が阻止できなかった時）
→大規模火災の時の避難場所と避難ルートを地域住民に徹底周知。とりあえず、広域避難場所へ避難する。

《優先度 No2》

倒壊

家具転倒

40%



《対処方法》

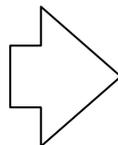
『耐震化・家具の固定を地域全体で促進する』

- ・地域へ事前の備えの必要性の啓発勉強会
- ・市の補助事業の活用
(回覧による市の事業の周知やあっせん)
- ・救出・搬送資器材の整備及び取扱い訓練
(ジャッキ、バールの取扱い)
- ・要救助者を発見したら、近隣住民ですぐ救出
- ・近隣で対応困難な場合は、活動拠点へ応援要請

《優先度 No3》

津波

10%



《対処方法》

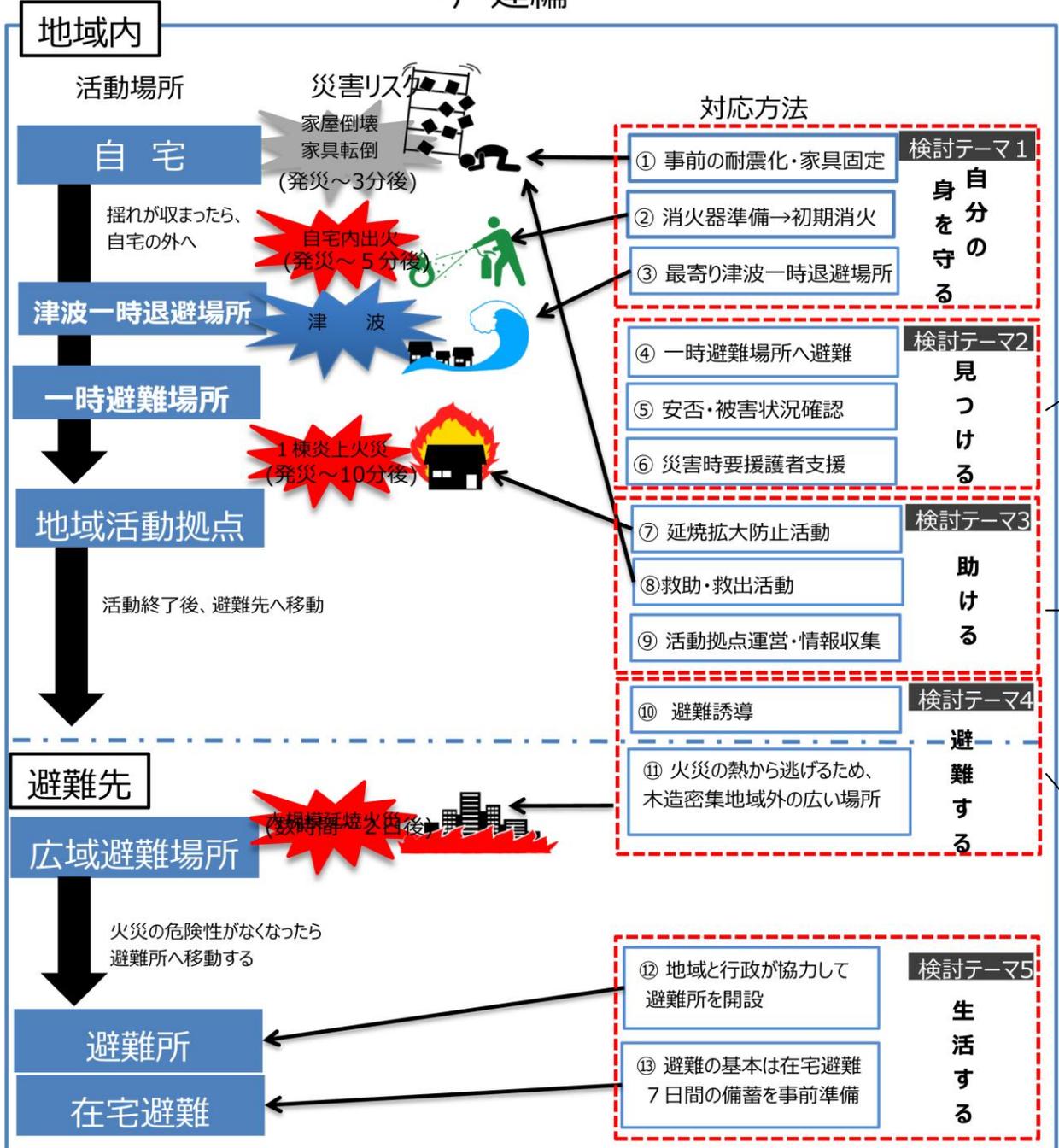
- ・津波一時退避場所の事前確認と周知
- ・津波一時退避場所までのルートと所要時間の確認
- ・津波一時退避場所への入り方の確認
- ・退避先での、津波情報の確認方法

整理②組織としての活動の在り方

STEP2 の検討項目のまとめ（戸建編）

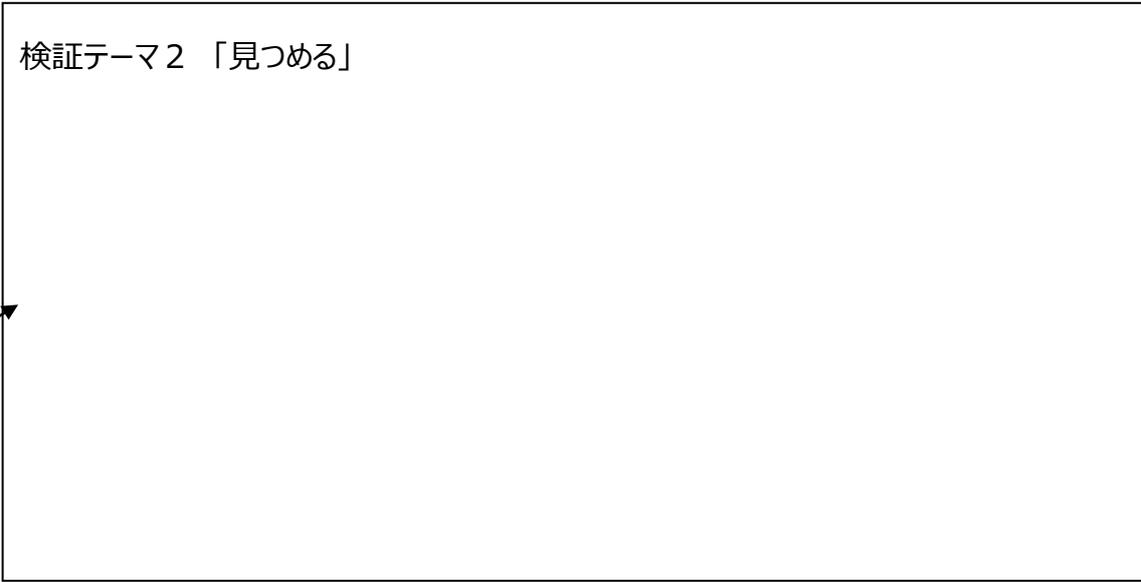
活動マニュアル検討項目リスト

～戸建編～

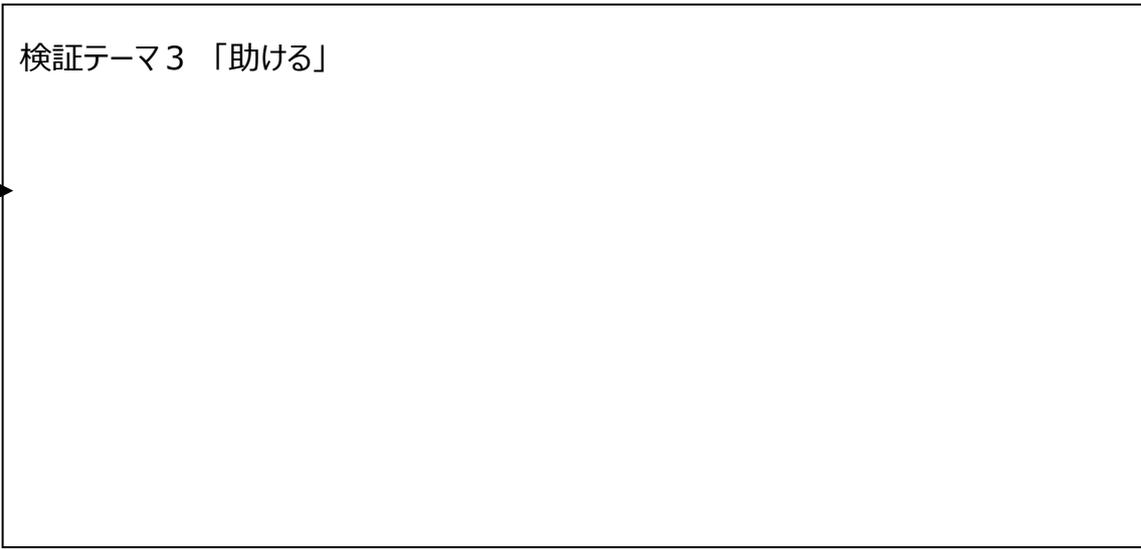


STEP 2で各検討テーマごとに、検討結果をまとめてみましょう。

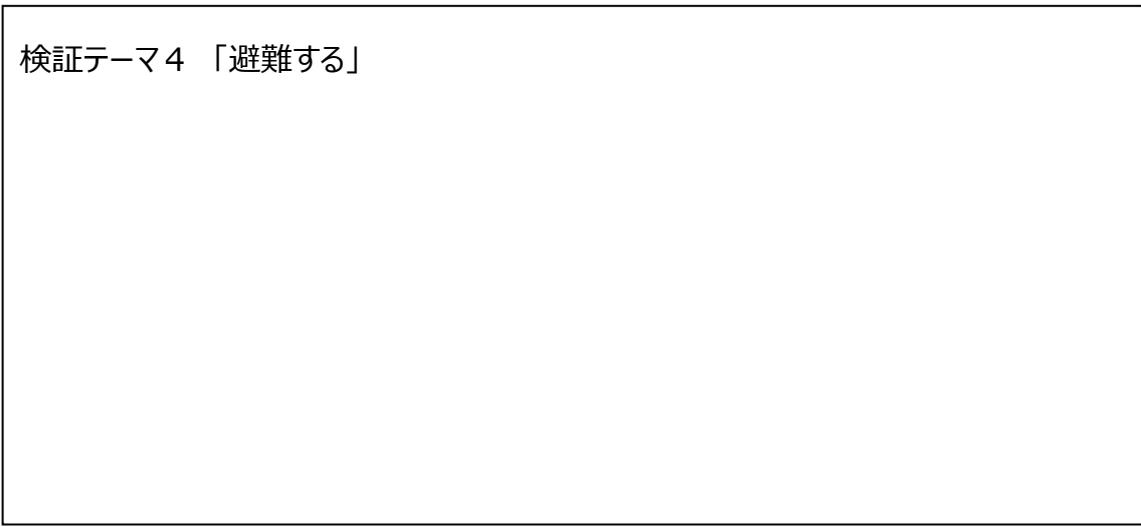
検証テーマ2 「見つめる」



検証テーマ3 「助ける」

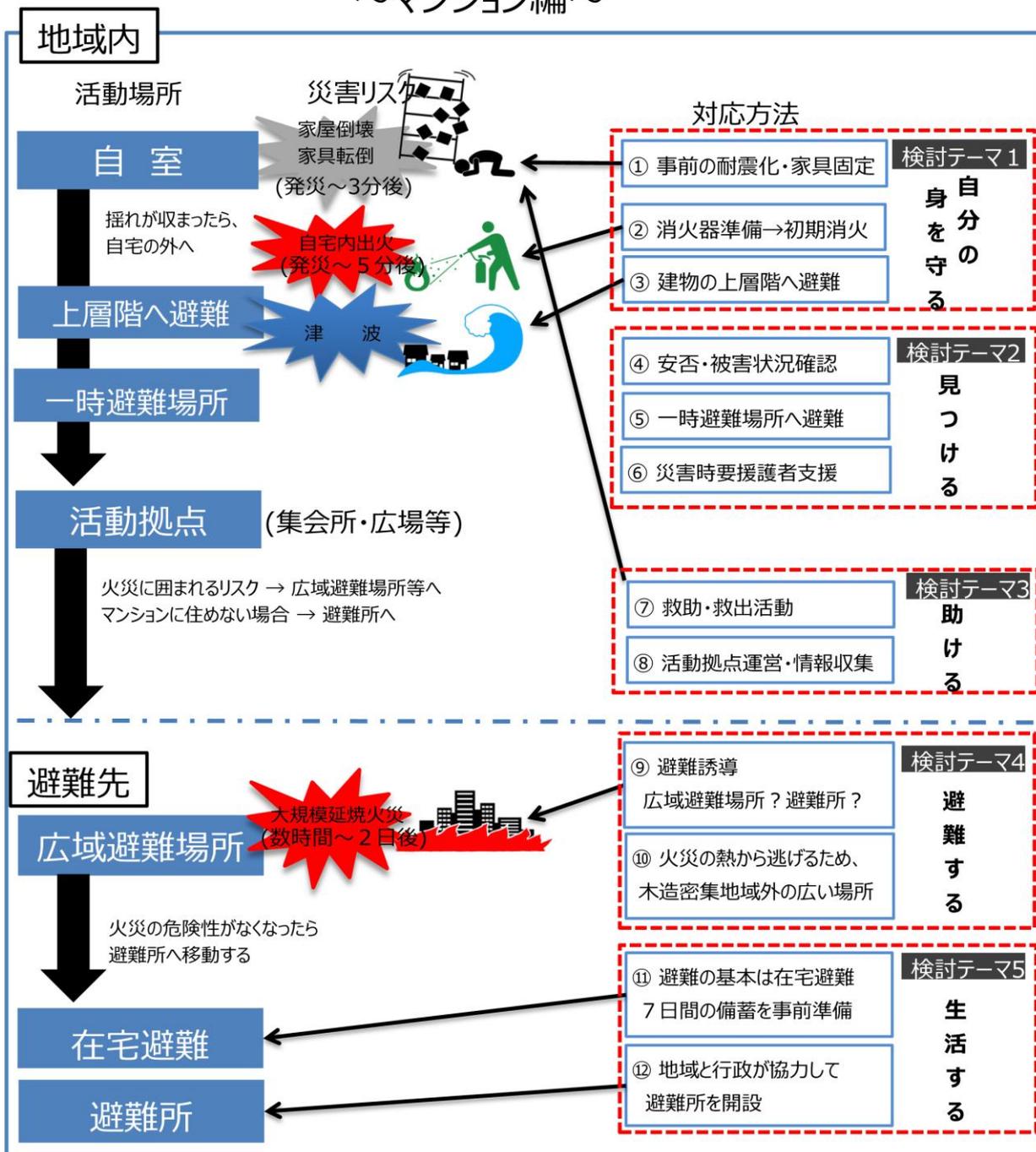


検証テーマ4 「避難する」



活動マニュアル検討項目リスト

～マンション編～



STEP 2で各検討テーマごとに、検討結果をまとめてみましょう。

検証テーマ2 「見つめる」

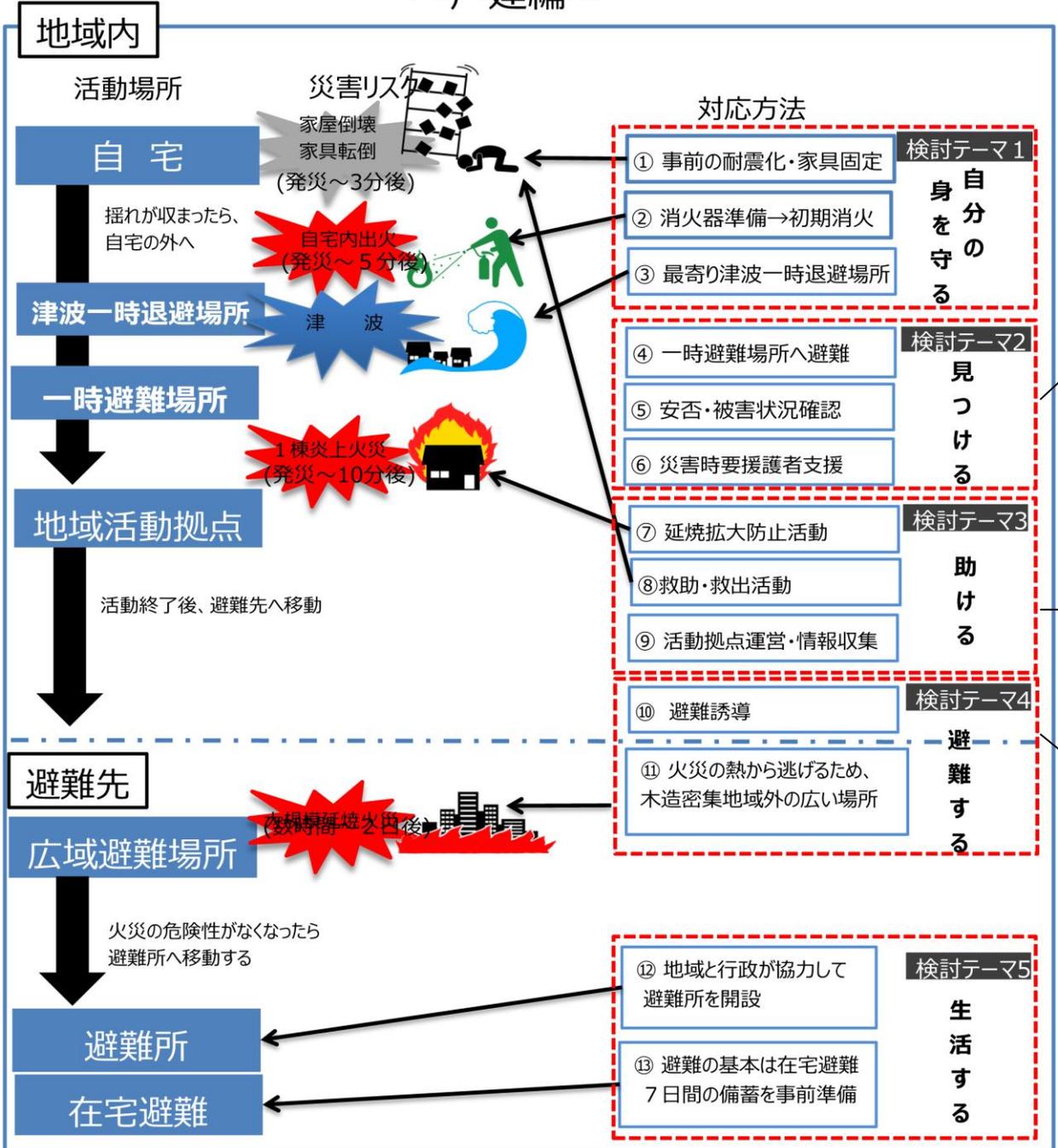
検証テーマ3 「助ける」

検証テーマ4 「避難する」

(参考例) STEP2 の検討項目のまとめ

活動マニュアル検討項目リスト^{P.3}

～戸建編～



STEP 2で各検討テーマごとに、検討結果をまとめてみましょう。（参考例）

検証テーマ2 「見つめる」

安否確認 + 災害時要援護者

- ・震度 5 弱以上で安否確認
- ・組単位での安否確認の徹底
- ・各住戸は、震度 5 弱の地震を覚知した場合、すみやかに緑のスカーフを門扉など分かりやすい場所へ掲示する
- ・組員同士、両隣りの家を確認して、組長 or 前年の組長に報告
(とりまとめは基本的には組長、組長が不在もしくは負傷等により活動できない場合は前組長が代理)
- ・組で結果をとりまとめたら、自治会へ報告
被害状況（被害が出ている場合も、被害なしで無事な場合も報告）、負傷者、不在状況等
- ・災害時要援護者は、組長が事前に把握しておき、組全体で確認する。避難が必要な場合は、組で協力して避難支援をする。避難するための人で、資機材が足りない場合は、活動拠点へ応援を求める。
(災害時要援護者は、組全体で協力しながら避難支援をしてください)

検証テーマ3 「助ける」

救助活動…第一段階 隣近所で声を掛け合い、救助する

第二段階 組の中で協力をして救助活動を行う

第三段階 近隣で手に負えない場合は、活動拠点へ応援を求め、資器材と人手の調達をする（救助資器材を次年度以降追加購入する）

延焼阻止…移動式ホース格納箱を、どこで出火しても 10 分以内を目標に放水できるように配備する。各組内で 1 人は取扱いにができる人を訓練・養成していく

活動拠点…自治会館 + 防災倉庫を活動拠点とし、震度 5 弱で活動拠点の運営役員は自動参集する。

検証テーマ4 「避難する」

- ・避難所：松浪小学校、医療救護所：松浪中学校、広域避難場所：テラスモール湘南
- ・広域避難場所への避難ルートは 3 パターン設定（状況に応じてセレクトする）
- ・巨大な木造密集地域の中に位置するため、ひとまずは広域避難場所へ避難
- ・松浪地区のクラスター内で火災、煙が確認された場合は、町内全域に直ちにクラスター内で火災が発生していることを周知し、避難先も情報班から周知するように指示する。
- ・高齢者、障害者、妊婦、幼児等の応急活動に参加できない組員は、安否確認が取れ次第、広域避難場所へ避難するように指示する。残りの組員は、応急活動が終了し次第、速やかに避難する。
- ・災害時要援護者は、組で安否確認を行い、組員で協力して避難支援を行う。支援が困難な場合は、活動拠点へ応援要請する。

活動マニュアルの作成作業

■ 手順 1 ■ 検討内容を整理する

| マニュアル記載項目（例） | ジャンル | マニュアル記載項目 |
|--|------|-----------|
| <ul style="list-style-type: none">・組織構成(班構成)・連絡網・活動方針・活動フローチャート・防災マップ・耐震化・家具転倒防止・安否確認・一時避難場所・災害時要援護者支援・津波一時退避場所・初期消火活動・延焼阻止活動・救助救出活動・地域活動拠点運営・避難誘導・備蓄・避難所開設・持ち出し品チェックリスト etc | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

マニュアルに掲載する事項を決めましょう

マニュアルにどのような項目を載せるか、大まかな項目のセレクトをしましょう。

上記のマニュアル記載項目（例）を参考に、項目を決めてください。項目の例にないものを項目として挙げていただいても結構です。

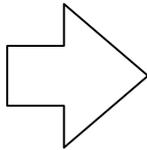
項目の選び方について

マニュアルに掲載する項目を選ぶためには、「マニュアルで何を伝えなければいけないのか」をイメージしてみましょう。地域に周知したい「事前の備え」「活動方法」「地域のリスク」等があるはずです。

地域に「何を伝えたいか」「地域にどのように行動してほしいか」をコンセプトにしてみると選びやすいです。

**(参考例) SAMPLE 用
マニュアル記載項目 (例)**

- ・組織構成(班構成)
- ・連絡網
- ・活動方針
- ・活動フローチャート
- ・防災マップ
- ・耐震化・家具転倒防止
- ・安否確認・一時避難場所
- ・災害時要援護者支援
- ・津波一時退避場所
- ・初期消火活動
- ・延焼阻止活動
- ・救助救出活動
- ・地域活動拠点運営
- ・避難誘導
- ・備蓄
- ・避難所開設
- ・持ち出し品チェックリスト
- etc



| ジャンル | マニュアル記載項目 |
|--------|---|
| 組織について | <ul style="list-style-type: none"> ・組織構成(班構成) ・連絡網 ・活動方針 |
| 全体の流れ | <ul style="list-style-type: none"> ・活動フローチャート ・防災マップ |
| 自助 | <ul style="list-style-type: none"> ・耐震化・家具転倒防止 ・備蓄(在宅避難の備え) |
| 共助 | <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認・一時避難場所 ・災害時要援護者支援 ・津波一時退避場所 |
| 共助 | <ul style="list-style-type: none"> ・初期消火活動 ・延焼阻止活動 ・救助救出活動 ・地域活動拠点運営 ・避難誘導 |
| 避難所 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難所開設 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・持ち出し品チェックリスト |

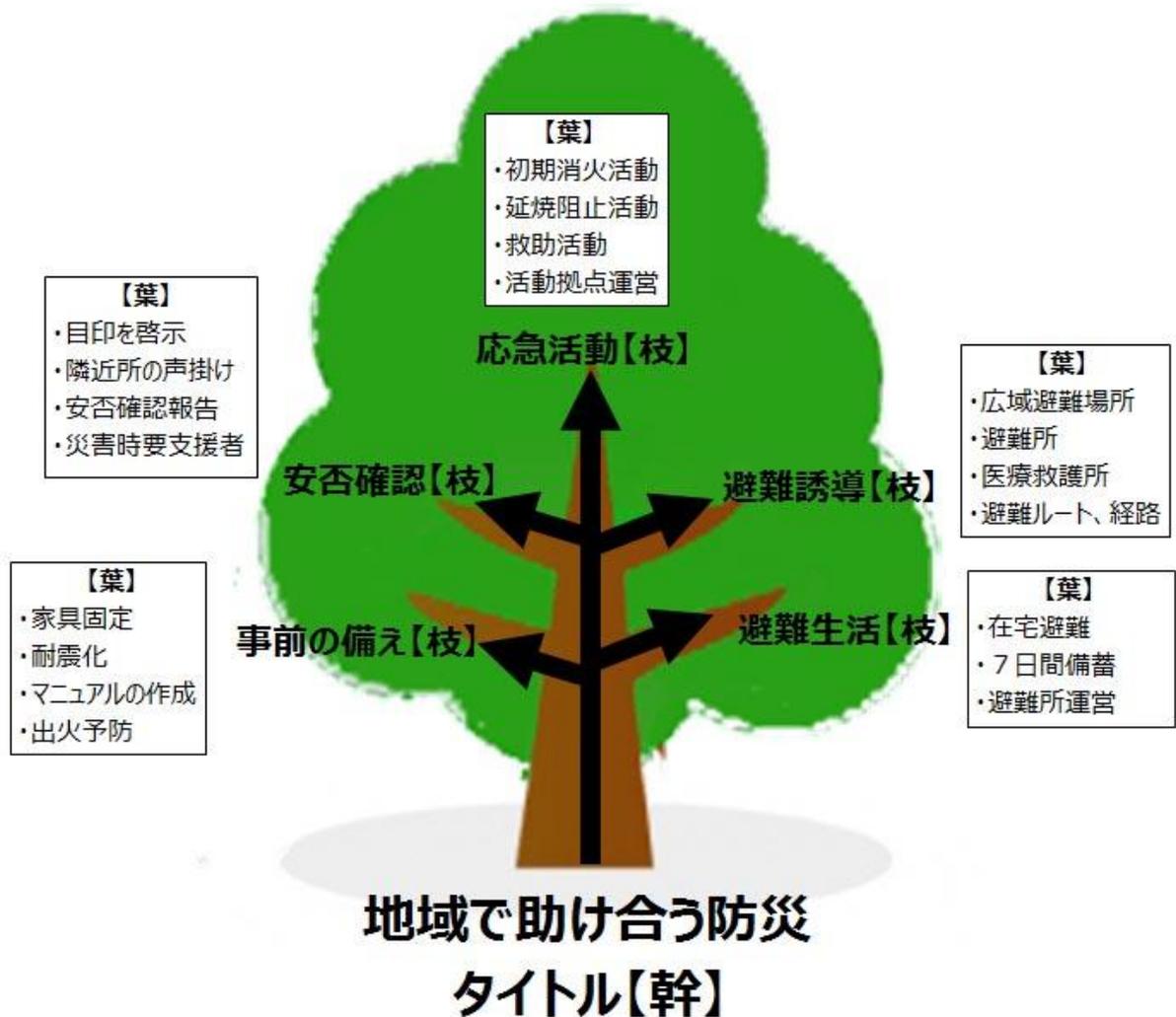
■ 手順 2 ■ マニュアルの構成と目次を考える

目次は論理的にマニュアルを構成するための「要」

マニュアルの構成と目次を考えるときは、木をイメージしましょう。

何が「幹」で、何が「枝」で、何が「葉」なのかをイメージすると構成が見えてきます。

【構成をイメージする】（参考例）



【幹】・・・「タイトル」「活動方針」「主旨」「主題」

【枝】・・・幹から分かれる「ジャンル」「大項目」

【葉】・・・枝から細かく派生した、詳細な項目、具体的な項目

(参考例)

≪目次≫

タイトル【幹】「地域で助け合う防災」

1 事前の備え【枝】

- ・家具固定
- ・耐震化
- ・マニュアルの作成
- ・出火予防

2 安否確認【枝】

- ・目印を啓示
- ・隣近所の声掛け
- ・安否確認報告
- ・災害時要支援者

3 応急活動【枝】

- ・初期消火活動
- ・延焼阻止活動
- ・救助活動
- ・活動拠点運営

4 避難誘導【枝】

- ・広域避難場所
- ・避難所
- ・医療救護所
- ・避難ルート、経路

5 避難生活【枝】

- ・在宅避難
- ・7日間備蓄
- ・避難所運営

■手順3 ■ページのレイアウトを考える

絵コンテを書くように、ページレイアウトのイメージを書き出す。

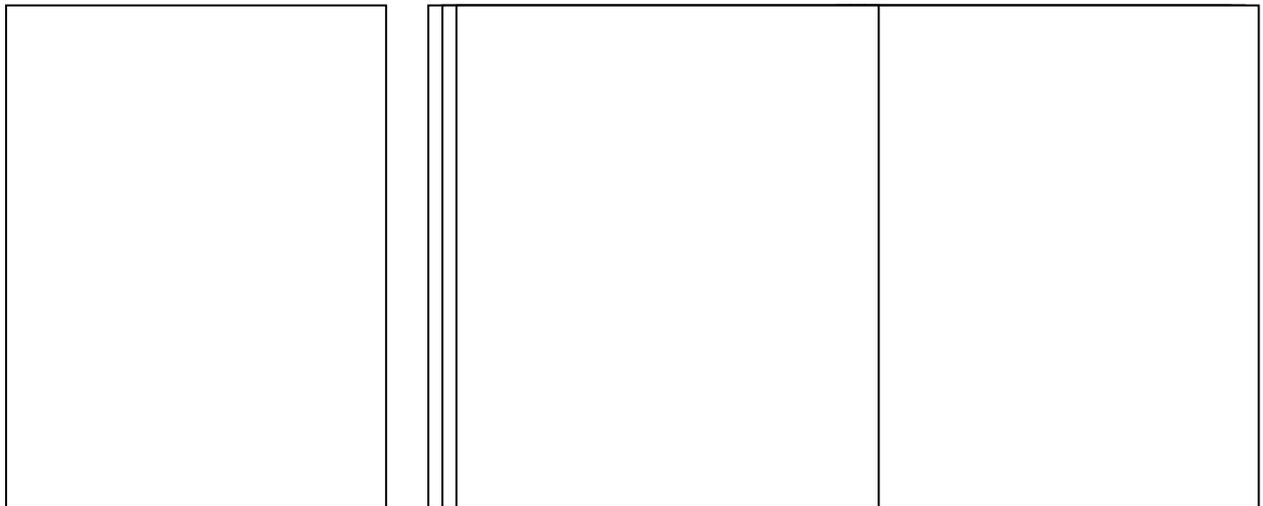
【レイアウトを考える際のポイント】

- ・マニュアルの冊子は何ページにするか？
- ・各掲載項目をどれくらいのスペースで割り振るか
- ・見開きのページはあるか
- ・時系列やカテゴリー順に見やすい構成か

表紙

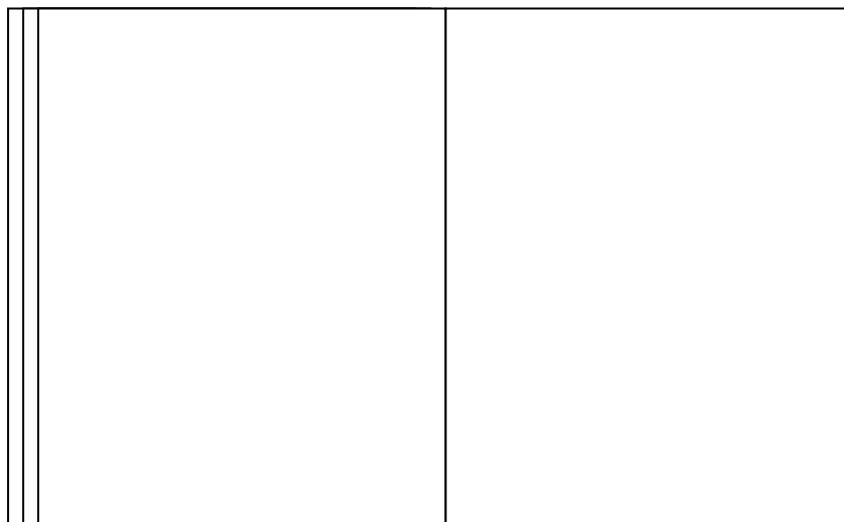
表紙裏面

P1



P2

P3



P4

P5

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

P6

P7

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

P8

P9

裏表紙

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

■ 手順 4 ■ 分かりやすく見やすいマニュアルの工夫

マニュアルは、地域に、協力してほしい活動内容を伝える重要なツールです。地域に伝わらず災害時にバラバラに活動してはせっかくマニュアルを作った意味がなくなってしまいます。

分かり易く伝えるイメージしやすいように伝えるためには、テクニックが必要です。マニュアルをおおざっぱなレイアウトを考えたら、見やすく分かり易い表現で原稿内容を書き出していきます。

マニュアルの構成

論理的で分かりやすい構造
【時系列やカテゴリーでうまく整理されている】



テクニック 1

正確・簡潔で分かりやすい表題、項目名
【短く具体的に表現する】

テクニック 2

効果的なデザイン・レイアウト・カラー配色
【ナンバリング フォントの強弱と大きさ、カラー】

テクニック 3

文章の図式化
【チャートや構造図等の図解思考で情報を整理】

テクニック 4

イメージは、言葉ではなく写真やイラストで
【視覚的表現で、見やすく理解りやすくなる】

《わかりにくいマニュアルの共通点》

- ・何が言いたいかわからない
- ・難しい用語が多く、意味が分からない
- ・情報量が多すぎて、ポイントがわからない
- ・具体的な実施方法や活動手順があいまい

テクニック 1 簡潔な表現

サンプル事例 表紙～P1

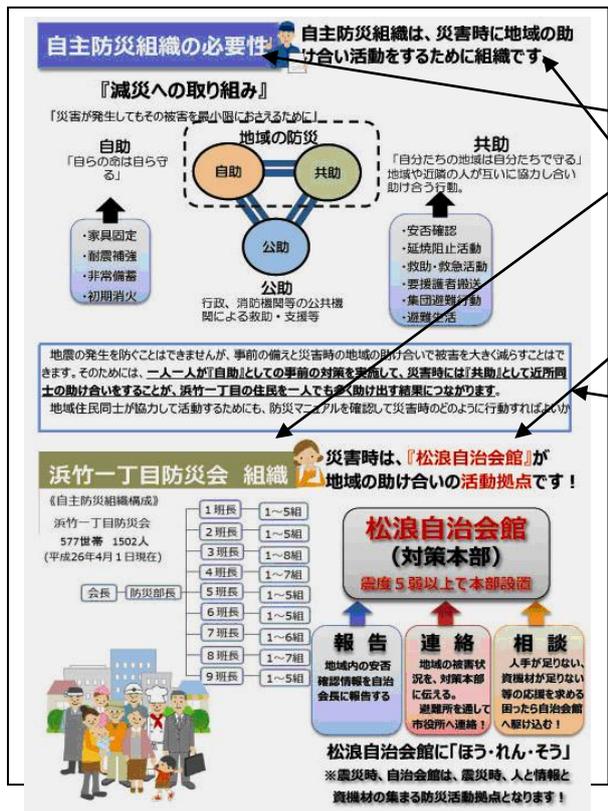


ここが POINT
 タイトル、活動方針、項目等の大見出し、小見出しは短いフレーズにまとめる
 文章もできるだけシンプルにフレーズを短くする。

【年度】
 マニュアル作成後の検証・見直しも考慮して、年度が分かるとよい。

【活動方針】
 「地域の助け合い活動」

【活動要点 三箇条】
 中身を見るまでもなく活動の要点をシンプルにあげる



【大項目】
 できるだけワンフレーズ
 SIMPLE IS BEST

【小項目】
 趣旨を短いフレーズで表現

【説明文】
 懲りすぎず、要点を書く。
 長すぎる文字情報は、ただのノイズ

テクニック2 効果的なデザイン・レイアウト・カラー配色

ナンバリングフォントの強弱と大きさ、カラーの使い分け

フォントの強弱とフォントの大きさ

大項目 1

小項目 1

説明文 1

ここが POINT

大項目 > 小項目 > 説明文の順に目立たせる

【目立つためには・・・】

- ・文字の大きさを**大きく**する
- ・**太字**の書体にする
- ・文字色を**目立つ配色**にする

備蓄(7日間分) 避難生活は在宅避難が基本 自宅で生活するための備蓄を!

避難所での生活は、ストレスのたまる共同生活。備蓄をして自宅で避難生活を!
在宅避難のための備蓄は、各家庭で**1週間程度の備蓄**をしましょう!

避難所に避難する理由
ライフラインの停止が理由の大半
(ガス・水道・電気が使えない状態)

自宅での避難生活をするために重要な項目
水・食料・ガス・トイレ

ライフラインが停止しても生活できる備えをしましょう

水+食料+熱源(ガス) 非常備蓄必須3点セット

| | |
|--|--|
| 水  飲料水として1人1日1ℓの水が必要 調理用にも使用する水も含めると3リットル程度あれば安心です。3ℓ×7日=21ℓ | ワンポイントアドバイス 高齢者や乳幼児、アレルギー-疾患の方への配慮 |
| 食料  2kgの米袋+水+熱源があれば、約27食分になります。(1食=0.5合=75g) 感ず日は、調理不要なものを選ぶと便利 | 介護食や離乳食、アレルギーの出ない食事を備えておくことをお勧めします |
| 熱源  熱源は、食糧を温めたり簡単な調理に必要ですボンベも忘れずに! | |

トイレ(便袋) 震災時は、水を使わない便袋を活用

震災時は、断水したり、下水道が使えず水洗トイレは使用できません。自宅のトイレに便袋を掛けて、使用しましょう!

『汚物の入った袋の処理方法』
汚物の入った袋は、震災後にゴミ収集車が再開したら、燃えるゴミとして捨てることができます。匂いが漏れないように口を閉じて保管しておきましょう(汚物は平常時はゴミとして捨てられません)

4人家族、7日間分の備蓄

- 食事は1日3食、7日間で84食(一人21食)
- お米は1人1食75グラム、84食で約6kg
- ※84食分をすべて備蓄するのではなく、「米びつの米を活用」
- 米は主食であり、貴重な炭水化物
- 調理はカセット式コンロ(予備ボンベ12本)
- トイレは1日5回使用として、140回分必要

長期備蓄の秘密アイテム

炊飯器を使わない米の炊き方

炊飯袋
お米約150gとお水を袋に詰め、20分間沸騰させるだけでご飯が炊き上がります。



テクニック3 文章の図式化

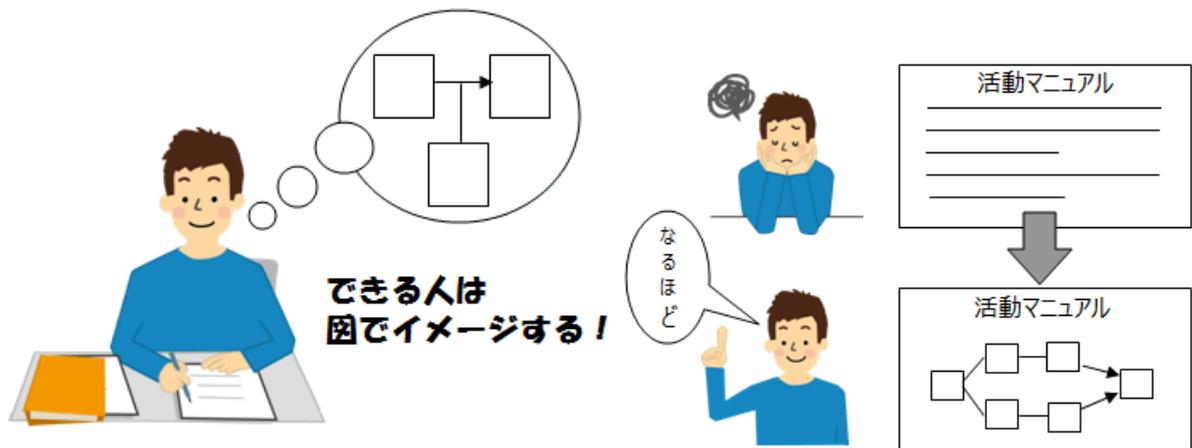
イメージを伝えるには「図式化」が効果的

文字だけのマニュアルだと、それだけで内容を理解するのに時間を要し、嫌煙されがちなマニュアルになりかねません。

そのような場合は、文章を四角と矢印で整理し、図式化することで一目でわかる「絵」として、見れるようになります。このような作業を、文章の図式化といいます。

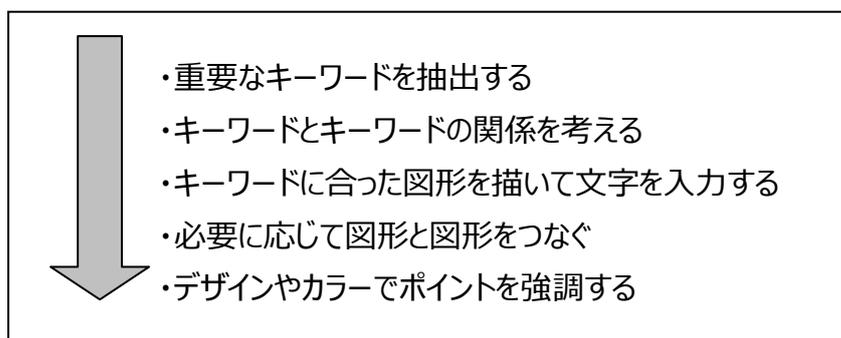
組織図や、活動手順、その他いろいろなもの簡単に図式化できます。マニュアルを作成する際に、メンバー同士で分かり易い図の表現について案を出し合ってみましょう。

また、図で書くことにより、頭の中で情報が整理され、論理的に物事を考えられるようになります。これを「図解思考」といいます。



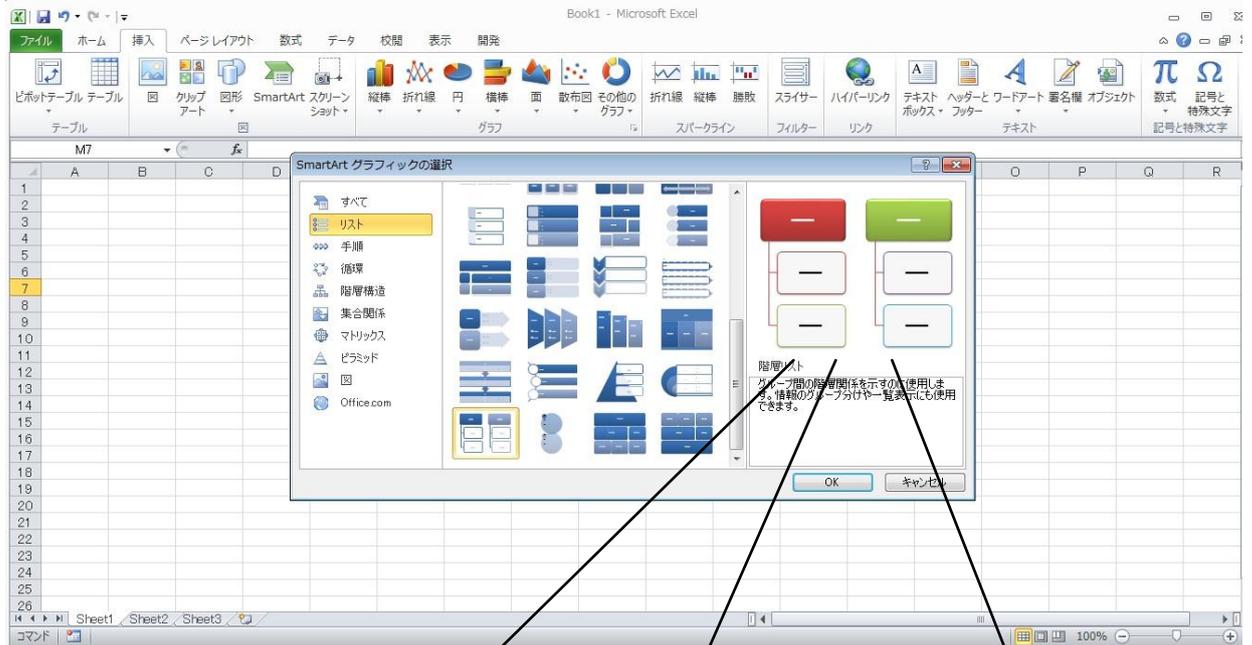
チャート化（図解）の手順

文章だけだと複雑で分かりにくい表現を、図形と矢印で図式化することで分かりやすくなる。



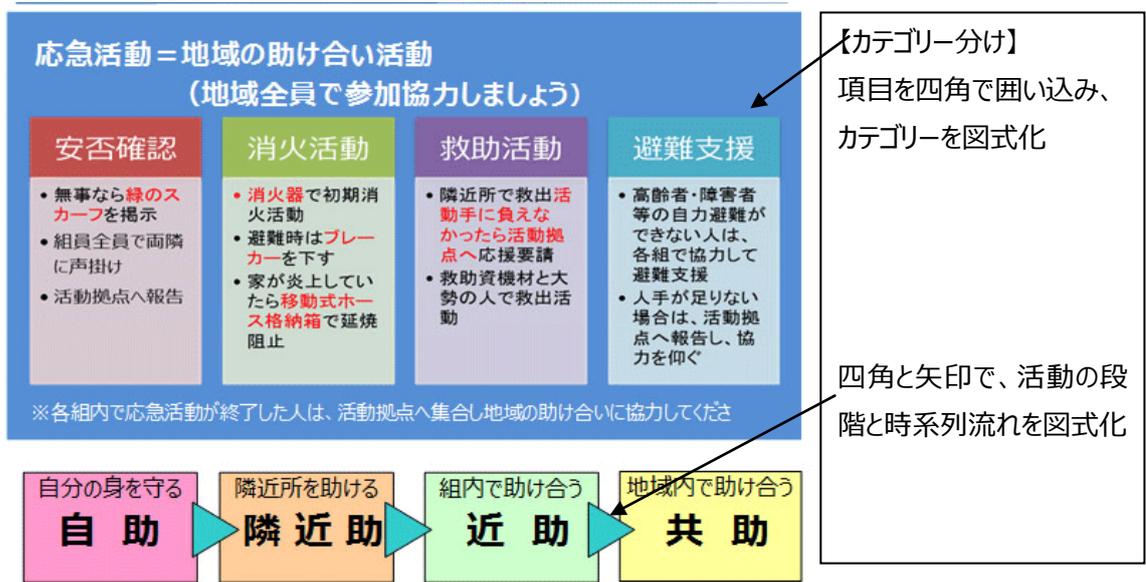
図解で表現するとき便利な機能 Excel 「Smart Art」

「挿入」タブの「Smart Art」をクリック



いろいろな図解のフォーマットを選べる

サンプル事例 応急活動



テクニック4 イメージは、言葉ではなく写真やイラストで

活動内容を伝える場合や項目を表示する際に、イラストや写真、地図等で表現するとイメージが伝えやすく見栄えの良いマニュアルになります。

イラストの入手の方法は、大きく2種類。「有料のイラスト素材」か、「無料のイラスト素材」に分かれます。テキストでは、フリーのイラスト素材のホームページをいくつかご紹介します。

※無料のイラスト素材についても著作権は作成者側にあります。利用規約等を確認したうえで、イラストの作者に迷惑がかかわらないように素材を活用しましょう。

《フリー素材集サイト》 サイト名を検索してください

サイト名『いらすとや: 無料イラスト かわいいフリー素材集』



サイト名『こどもや赤ちゃんのイラストわんぱぐ』



検索サイトで「イラスト」「防災」等のキーワードで、色々な素材を探してみましょう。

《えぼし麻呂イラスト》

市の公式キャラクター「えぼし麻呂」のイラストも市のホームページからダウンロードして使用することができます。市のホームページのサイト内検索に「えぼし麻呂イラスト」と入力し検索するとイラストのページが見つかります。



サンプル事例 防災マップ

【活動の流れ】

- ① 自宅
(身の安全を守る)
- ↓
- ② 一時避難場所
※津波一時避難場所
(安否確認)
- ↓
- ③ 隣近所で助け合い
(資機材は防災倉庫)
- ↓
- ④ 自治会館に報告
(安否報告・応援要請)
- ↓
- ⑤ 避難誘導
(まずは広域避難場所)
- ↓
- ⑥ 避難生活
(住七避難が基本)

浜竹一丁目防災マップ

《凡例》

- 自治会館
- 防災備蓄倉庫
- 一時避難場所
- 津波一時避難場所
- 街頭消火器
- 消火栓
- ホース格納箱

| | | |
|---|---|---|
| <p>自治会倉庫(松浪自治会館)</p> <p>《本部活動用》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テント一式 ・防災用シー×1 ・ござ×2 ・トランシーバー×8 ・救急箱×1 <p>《搬送用》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンド型メガホン×1 ・移動用拡声器×1 ・マイク(有線)×2 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯用トイレセット×100 ・アルミバケツ(蓋付) ・保冷ポット | <p>防災倉庫(松浪自治会館)</p> <p>《救助活動用》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコップ×3 ・バール×3 ・ジャッキ×1 ・鉄切りバサミ×1 ・ロープ×1 ・防災シート×3 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンマー×2 ・ノコギリ×1 ・金づち×3 ・クワ×2 ・ヘルメット×29 | <p>防災倉庫(三角広場)</p> <p>《救助活動用》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金デコ×1 ・スコップ×1 ・バール×3 ・鉄切りバサミ×1 ・ロープ×1 ・ノコギリ×1 ・金づち×2 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガソリン缶 ・電光ドラム ・ハロゲン投光器 ・マルチスタンド ・マルチテント(付)×4 ・家庭用簡易トイレセット ・炊出し用かまどセット×1 ・ガスバーナー×1 |
|---|---|---|

活動の流れ

防災マップ

防災資器材リスト

ここが POINT

防災マップなどの全体図は見開きページに割り当て大きく表現すると見やすい。また、地域に活動してほしい活動の流れや防災倉庫の中身から消火栓、街頭消火器等の防災情報をセットで載せると活動のイメージが湧く。

■ 手順 5 ■ 印刷・製本について

あとは原稿入稿のみ

ここまで、掲載項目、構成、レイアウトを考え、表現方法についても検討しました。

ここまでの段階で、ほぼマニュアルとしての輪郭は見えているはずですが。あとは内容を精査し印刷業者に原稿を入稿しましょう。

製本費用について

マニュアルを印刷するには当然費用が掛かります。全額自治会費で支出する自治会もあるとは思いますが、それ以外でも次のようなケースで作成することができます。

1 防災資器材整備費補助金を活用し半額補助

防災対策課から毎年お知らせしている補助金を活用し、半額補助で印刷することができます。

金額の上限は、他の資器材購入費なども含め、30万円まで半額補助できます。

(購入合計金額60万円までなら半分の30万円が補助金として出ます)

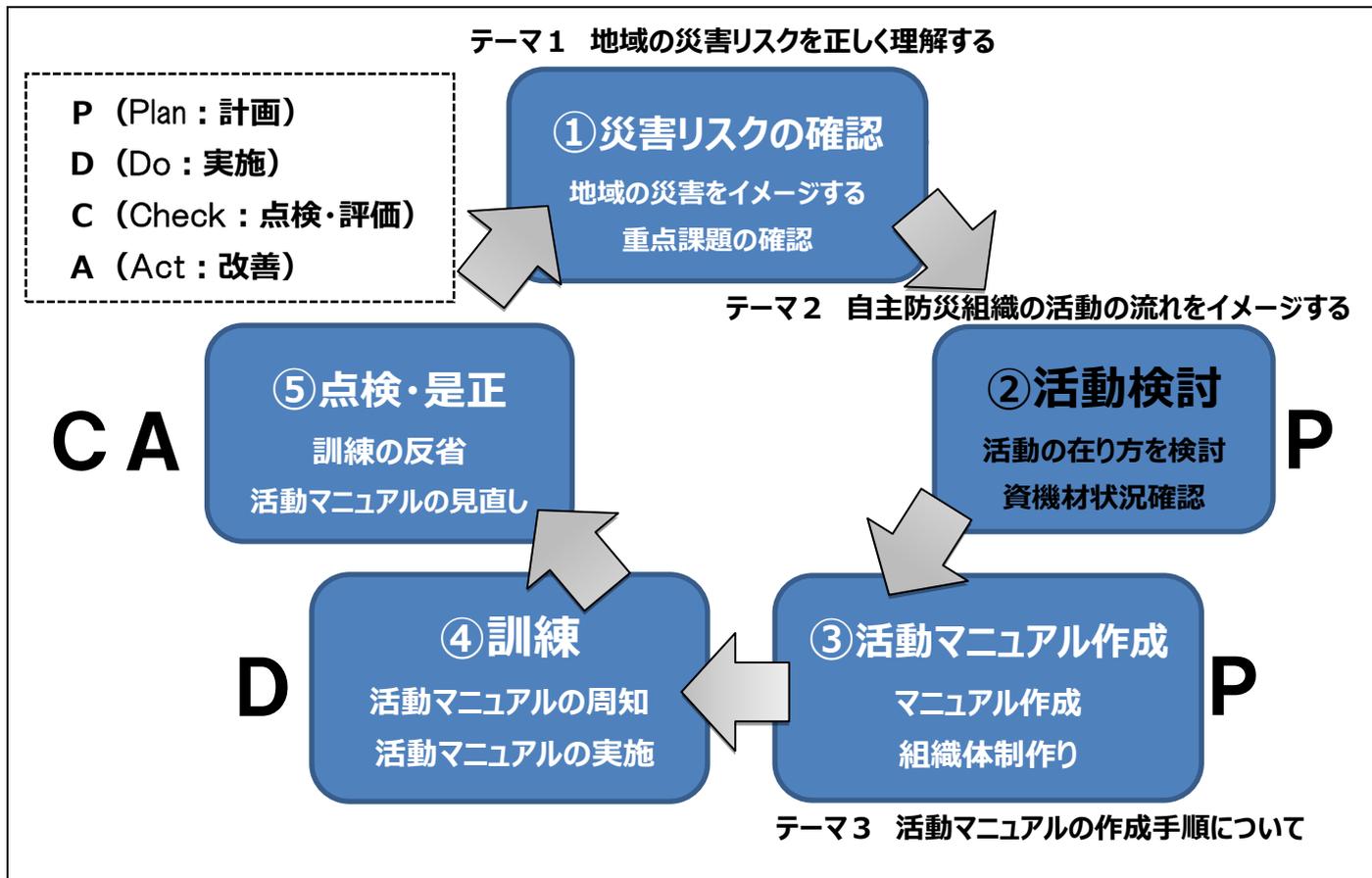
2 裏表紙に地元企業の広告を掲載し、広告費用で賄う。

マニュアルは、地域の全住戸に配布するため、裏用紙などに企業広告などを掲載することで、広告としての効果があります。地域で配るのであれば、当然、地域のお店の広告を掲載することが効果的となります。地元のお店に広告スポンサーとして協力してもらえれば両者にとってメリットのあるお話になります。

しかし、今後、マニュアルの見直した後の新たなマニュアルの印刷を考えているのであれば、「永久保存版」でない旨をお伝えしておいたほうがトラブルにならないかもしれません。

活動マニュアル作成後の活用方法

P D C A サイクル ～気づきから実行へ～



《活動マニュアル作成プロセスとP D C A サイクルによる継続的活動》

地域防災力を向上させるためには、①具体的な目的に対し、②具体的な対処方法を考え、③具体的な活動ルール（活動マニュアル）を作り、④訓練を通し実践し、⑤反省点を活動ルール等の是正に反映するという活動サイクルを繰り返して継続的に改善することが効果的です。

《自主防災組織活動マニュアル作成により期待できるメリット》

- ① 具体的な災害のイメージ、重要課題に気づくことで、防災活動への動機づけ、意識高揚が図れる。
- ② 地図上で地域の防災情報(避難所、広域避難場所、消火栓、街頭消火器、防災倉庫等)を確認し、防災活動の動線をイメージすることで、防災マップの素案が作成できる。同時に地域の地図上で具体的な活動内容を検討することで、必要な防災資機材の洗い出しができる（防災資機材の購入を計画的に進められる）
- ③ 地域の地図上で具体的な活動の在り方を検討することで、現実的かつ実践的な計画を作成できる。
- ④ 活動マニュアルをもとに、現実に即した実践的な訓練計画を作成することができる。
- ⑤ 活動マニュアルに基づく訓練を実行することで、活動マニュアルの内容を検証し、より精度の高いマニュアルにすることができる。

活動マニュアルを基に実践的・現実的な訓練を企画しましょう！

企画手順

| | |
|----------|---|
| 訓練 STEP1 | 訓練で検証したい活動内容を決める |
| 訓練 STEP2 | マニュアルに沿って、行動手順を書き出し『訓練実施要領』を作成する |
| 訓練 STEP3 | 訓練の流れを参加者に説明して、マニュアルの行動手順を理解してもらう |
| 訓練 STEP4 | 訓練を実施して、反省会を開催（訓練は失敗することが大事、振り返ることはもっと大事） |
| 訓練 STEP5 | 訓練の反省をもとに、マニュアルを見直す |
| 訓練 STEP6 | 訓練が終わったら、『防災だより』など回覧・広報誌で地域に防災活動を発信し PR しましょう |

訓練 STEP1 訓練で検証したい活動内容を決める

マニュアルの内容を基に、企画する訓練の主眼とする項目を考える。

- ・安否確認訓練
- ・応急活動（消火・救助・搬送）訓練 + 活動拠点運営訓練
- ・避難訓練（一時避難場所→広域避難場所→避難所）
- ・発災から避難完了までの一連の流れの訓練なのか等
- ・想定する災害リスクが「火災」なのか「津波」なのか

訓練 STEP2 マニュアルに沿って、行動手順を書き出し『訓練実施要領』を作成する

マニュアルの中にある活動の手順を訓練の中で確認できるように、時系列の流れに沿って項目を洗い出す。

活動内容は、可能な限り**実践的で現実的なリアリティーのある訓練**であることが望ましいです。

そのためには、時間を図りながら、一連の流れを通して試みるのが重要です。

地域によっては、発災直後の「①身の安全の確保」→「②安否確認」→「③消火器訓練(初期消火)」→「④移動式ホース格納箱(延焼阻止活動)」→「⑤広域避難場所へ避難」の火災をテーマとした一連の行動を1つのシナリオとして実施している自治会もあります。各地域にあった活動の内容で、何に備えるか明確な目標を持って取り組んでみてください。

訓練 STEP3 訓練の流れを参加者に説明して、マニュアルの行動手順を理解してもらう

訓練参加者に訓練の内容を理解してもらうことで、訓練をとおして「活動マニュアル」の行動手順を知ってもらう。

また、地域の特性や住んでいる場所から考えられる死のリスクを理解して、活動の必要性を動機づけとして理解した上で訓練をすることも効果的です。地域が、どのリスクに備え、どのような活動が必要かをイメージすることも参加者に危機感を持ってもらう上で重要なのです。

訓練 STEP4 訓練を実施後、反省会を開催訓練は失敗することが大事、振り返ることはもっと大事)

訓練は、失敗を恐れ完璧にやろうとしてはダメです。失敗して、課題を見つけることが重要なのです。そのためには、訓練をやり終えたら、やりっぱなしではなく反省会を開いたり、アンケートで意見を集計して、改善点を見つけてください。『反省意見』が訓練の一番のオイシイ部分なんです！

| 例 反省箇所 | 改善方法 |
|----------------------|-------------------------|
| 安否確認の情報がうまくまとめられなかった | → 集計様式を見直す |
| 資機材の取扱方が分からなかった | → 資機材取扱訓練を実施 |
| 資機材の数量が足りなかった | → 次年度、資機材の増強 |
| 避難経路が通ってみたら危険箇所があった | → 避難経路の見直し |
| 情報伝達に時間がかかった | → 伝達方法見直し or トランシーバー等購入 |
| 移動式ホース格納箱が、近辺になかった | → 移動式ホース格納箱の設置箇所を増やす |

訓練 STEP5 訓練の反省をもとに、マニュアルを見直す

訓練の反省点を抽出したら、活動マニュアルと照らし合わせて、活動マニュアルを『評価』しましょう。

活動のルールを修正したり、必要な資機材を見直したり、より具体的で効率的な現実に即したマニュアルに年々昇華していきましょう。マニュアルは一度作ってお終いではありません。

最初に作ったマニュアルが理想なマニュアルであるとも限りません。訓練を通して実際の活動と照らし合わせて、見直し、バージョンアップしていきましょう。

訓練 STEP6 訓練が終わったら、回覧・広報誌で地域に防災活動を発信し、PRしましょう

訓練後の反省会を終えたら、訓練結果をまとめて地域の防災の取り組みを『防災だより』のような回覧で、参加している人だけでなく、参加していない人達にも周知します。

防災の情報をできるだけ積極的に発信して、自分の住んでいる地域は防災活動に一生懸命取り組んでいるという姿を地域全体に伝えることが、仲間や参加者を増やし、少しずつ防災活動を広げる大事な取り組みとなります。

マニュアルを活用した訓練のメリット

活動の流れに沿った一連の動きを経験する

資機材取扱訓練等の単発的な訓練ではなく、発災直後から避難するまでの一連の流れを確認しながら訓練できる。練習で経験しないことは、本番で実践することはできません！まずは災害時に求められる行動を忠実に現実的に経験することが重要となります。

実践的な防災訓練への段階的ステップ

マニュアルに計画されている活動ルールに基づいて、訓練を実施してみましょう。

マニュアルの活動ルールに基づく訓練を実施するには、ルールの周知・浸透の度合いに応じて段階的に訓練内容のレベルを上げてみましょう。訓練の段階は、次の2段階に分かれます。

シナリオ型訓練 (基本編) 被害想定や活動内容、具体的な対処方法について事前に話し合い、取り決めておき、事前に申し合わせた活動の展開（シナリオ）に沿って実施する訓練です。

ブラインド型訓練 (応用編) 火災や負傷者の発生場所は、訓練参加者には事前には知らせず、訓練の最中に訓練参加者に対して、訓練運営者側が被害想定を与え、訓練参加者にその場の判断で臨機応変に対応させる訓練です。

シナリオ型訓練→ブラインド訓練へ段階的にステップアップしてみましょう

シナリオ型の訓練は、事前に被害想定への対応方法について、じっくり検討してから訓練で検討した事前に参加者で想定を作り、活動マニュアルに基づいた対応方法についてじっくり話し合いながら検討することができます。

訓練参加者に活動ルールが浸透していない段階では、まずは一つ一つの活動をみんなで話し合いながら決めて、活動手順の流れをシナリオとして作りルールになぞらえながら活動することが重要です。

何回かシナリオ型の訓練を実施することで、活動ルールが地域に周知・浸透されはじめたら、訓練のレベルを少し上げてブラインド型訓練に挑戦してみましょう。ブラインド型訓練では、できるだけ

自主防災組織活動マニュアル提出のお願い

自主防災組織活動マニュアルを既に作成している組織、もしくは研修会以降に新たにマニュアルを作成・見直し等をした組織につきましては、防災対策課までマニュアルの提出をお願いいたします。

防災対策課として、地域の取り組み状況及び活動方法等を把握するために各組織のマニュアルを保管させていただきたいと思っております。情報に関しては、責任を持って管理させていただきます。

また、提出していただいたマニュアルの中で、ホームページに公開の了解をいただけるマニュアルについては、ホームページに公開し、各自主防災組織のマニュアル作成のための情報共有を図らせていただきたいと思います。

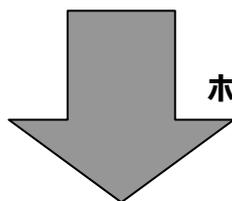
ホームページに公開する際に、個人情報等の関係で掲載できないページがある場合は、事前に申し出ていただければ、ページの一部のみを隠して掲載することも可能となりますので、ご相談ください。

『防災対策課へ自主防災組織活動マニュアルの提出』

対象：既にマニュアルを作成の組織

研修会以降にマニュアルを作成・見直しをした組織

目的：防災対策課で、各組織の取り組み状況とを把握するため



ホームページの掲載の意向確認

『ホームページに公開』

対象：マニュアルの掲載を了解した組織

目的：組織間の情報共有、今後のマニュアル作成の底上げのため

※一部、掲載できないページは、隠して表示することも可能です。

成 26 年度自主防災組織活動マニュアル研修会

テーマ3 『活動マニュアルの作成手順について』

平成26年（2014年）12月発行

発 行 茅ヶ崎市

編 集 市民安全部防災対策課

〒253-8686

神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号

電 話 0467-82-1111（代表）

FAX 0467-82-1540

ホームページ <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

携 帯 サイト <http://mobile.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

携帯サイト
QRコード

